

佐野修さんを偲ぶ

平口 哲夫

2015年5月9日(土)に石川県自然史センターの理事会に出席した際、石川県立自然史資料館の水野昭憲館長から、佐野さんが食道癌の大手術をなさったということを知りました。お見舞いに伺おうかと思いつつ、詳しいことがわからないまま忙しさにかまけているうちに月日が経ってしまい、7月24日に亡くなられたという訃報のメールがセンターから届いた時にはびっくりした次第です。7月25日に行われたお通夜の席でお会いした奥様の美砂子さんから、一時、退院して自宅療養され、散歩に出かけることができるまでに回復なさったと伺い、その頃にお見舞いに行けばよかったと、申しわけなく思いました。最後は娘さんや幼いお孫さんにも見守られて安らかに旅立たれたとのことでした。

佐野さんとの出会いは、1970年代の後半に遡ります。1975・76年に調査主任を担当した宇ノ気町(現・たかまつ市)上山田貝塚発掘調査で出土した動物遺体の調査のために、魚骨の比較標本を手に入れようと、当時、金沢市の卯辰山にあった(株)金沢水族館を訪ね、そこに勤務しておられた佐野さんに初めてお会いしました。私が鯨類研究に携わるようになったのは1982・83年の能都町(現・能登町)真脇遺跡発掘調査で出土した多量のイルカ骨の調査を担当したのが切掛ですが、1988年、セト研設立の発起人に加わるようにお誘いいただきましたのはほかならぬ佐野さんです。

佐野さんはセト研発足以来、事務局や会誌編集などに尽力してこられ、1997年度から8年間、私がセト研代表を担当していたときに二人三脚で実務をこなした仲だけに、振り返りますと万感迫るものがあります。佐野さんは1945年6月26日生まれ、私は1945年4月4日生まれ、つまり昭和20年生でも終戦前に生まれた世代であり、戦後70年に古稀を迎えたこととなります。佐野さんとの40年近い交流を、私が撮った写真で辿って見たのですが、とりあえず本稿では4枚掲載し、ご冥福をお祈りいたします。



セト研第8回大会・エキスカッション(1997年6月8日、三国水族館、児玉公道代表と共に)



セト研第17回大会の懇親会(2006年7月7日、新宿サンパークホテル)



セト研第19回大会・ポスター発表(2008年6月15日 KKホテル金沢)



セト研第20回大会の研究会(2009年6月20日、北九州市立自然史・歴史博物館)



セト研第24回大会の懇親会(2013年5月25日、富山第一ホテル)